

モンゴルにおける環境現状と課題

- 1 自治体名 モンゴル、セレンゲ県
- 2 発表者名（所属名） ヤンガ A.

3 発表要旨

現在、環境保全は地球で最も重要な課題である。

人類は、経済的、社会的、科学技術的に進歩してきたが、その活動によって大気へ多量の温室効果を及ぼすガスが流れ、大気のおゾン層を破壊し、数多くの動植物類を絶滅させ、また、淡水は減量し、大旱魃や砂漠化が発生し、有害化学物質や様々な廃棄物による汚染が起き、さらに新しい病気が発生し、災害の数も増加している。

このように人類の社会や科学技術進歩は、私たちの人生に悪質な影響を与えている。

モンゴルの環境現状

昔から私たちの祖先は自然とその恵みを大切にし、環境保全にも取り組んできた。モンゴル人は河川の汚染、土壌の破壊、森林の伐採など許せない行為だと思っていたが、現在この習慣が失われている。この100年間で天然資源の使用は増加し、ある場合に使用量は急激に増えていて、それは自然の可能性を超える。

毎年天然資源の量が減少し、環境バランス破壊の傾向が見られる。

我国の大都会や人口密度の高い地域には、環境汚染はとても深刻である。例えば、モンゴル首都ウランバートルの環境現状は以下の通りである。

現在、ウランバートルには4つの火力発電所があり、その発電所から約200種類の汚染物質が大気へ排出されている。首都には5万台以上の車が走っており、9.2万戸の家庭が暖房用として30万トンの木炭、つまり年間に40万トンの木材を使用している。

煤塵や煤煙の原因になるボイラーからは、250種類以上の汚染物質が大気へ排出され、毎年40万トンの木炭が使用されている。

このような状況は大気汚染の原因となり、更に人間の健康にも悪質な影響を与えている。

廃棄物や有害物質の不法放棄、汚い地下室、山積みになっているごみは、人間や動植物にとって適していない汚い環境を作る。

放牧面積や家畜数のバランスが崩れているため、ある地域では土壌の侵食作用や砂漠化が進んでいる。砂漠化が原因でモンゴルの42.5%の土地が使用できなくなり、動植物の生存範囲が狭くなったため、絶滅の危機が広がっている。

最近、土壌の管理不足のため、農作地の質が下がり、肥沃も低下している。

また、自然環境の変化や人間活動によって天然の植物類の数も減少している。

科学者の研究に基づき、この100年で自然、気候状況、人間活動によって南モン

ゴルの森林の境界線が段々北へ進んでおり、森林の40%の面積に適用されている伐採法は国家基準に適していない。森林面積の1/4は既に人間の活動、火災などによって破壊されている。地球温暖化によって、4年間連続して全国の面積のおよそ50%で大旱魃が発生し、この三年間で餌不足のため数千万の家畜が死んで国の経済に大きな損害を与えた。

地球温暖化によって気候が変動し、土壌が乾燥する。そして砂漠化の過程が進んで、河川、湖などの数が減少し、土壌の肥沃度も低下し、侵食が激しくなる。淡水も減量し、結果的には環境現状の悪いところから環境状況の安定しているところへの人口の移動が激しくなる。